



久伊豆神社の社殿裏には、県の天然記念物に指定されている樹齢三百年の大榎がある。(岩槻駅から徒歩約15分)



浄安寺には、岩槻藩の初代藩主・高力清長や、徳川家康の六男・松平忠輝の子(徳松丸)の墓石もある。(岩槻駅から徒歩約12分)

大切に遺されてきた場所へ

岩槻には歴史を伝え、静寂さと安らぎを与えてくれる神社・仏閣が数多くあります。

木々が覆い、トンネルをつくる長い参道。ゆつくりと歩を進めれば、やがて「久伊豆神社」の拝殿が見えてきます。約千四百年前に建立されたといわれています。

戦国時代には岩槻城の総鎮守として置かれ、以降、歴代の城主から崇敬されました。今も岩槻の総鎮守として親しまれており、久伊豆が「くいず」と読めるこ

# 歴史と寄り添う

とからクイズの必勝祈願で訪れる人もいます。

「岩槻に過ぎたるものが二つある。児玉南柯と時の鐘」とうたわれた岩槻藩士で儒学者の児玉南柯の墓石があるのは「浄安寺」。ここには岩槻城下の「槍返し」の門が移設されています。

昔、将軍が通りかかり、持っていた槍を立てたままでは門を通れず「槍を返す(倒す)のは威厳にかかわる。門を壊せ」と命令。しかし、町人や城主の強い抵抗に遭い、結局槍を倒して通ったという言い伝えが残されている門なのです。



市宿通り道路整備協議会の皆さん。規範づくりでは、生活環境の改善やバリアフリーについても検討した。

まち並みの復活をめざす「市宿通り」の人々

日光御成道の宿場町として栄えた「市宿通り」。駅前通りと中央通りの交差点から大宮方向に向かう延長約500メートルの道です。かつては大きな商家が軒を連ねるなか、その名が示すように、毎月市が立ち、多くの人でにぎわっていたそうです。しかし、今は白壁土蔵造りの家が数軒残るだけで、昔の面影は薄れてしまいました。「歴史を感じるまち並みにして、通りを活性化させたい」と商店街の人々が立ち上がったのが10年前。きっかけは道路拡幅事業計画でした。拡幅に合わせて、沿道の景観を市民の手で守り育てようと考えたのです。

まず、当時の岩槻市都市計画課と協働で「市宿通り道路整備協議会」を設立。その後、協議会内に景観部会を設置し、会合を毎月2回行い、めざす道のイメージをまとめていきました。これを2年間続け、ついに平成12年、景観形成の指針となる「市宿通りまちづくり規範」を完成させました。

「沿道の皆さんにご協力をいただきながら、規範に基づいてまち並みを復活させ、いつか市宿通りを市の観光拠点にしたい」と語る会長の萩原良咲さん。

現在、少しずつですが、歴史的建物の保存、色彩の調和、木塀や日本瓦の屋根など自然素材の活用事例が生まれているところです。

# 人形のまち

職人たちの息づかいが聞こえる

全国一の生産高を誇る人形のまち・岩槻。ひな人形をはじめ、さまざまな人形を昔ながらの手作業でつくっています。一つの人形を、頭、衣裳(胴体)、手足、小道具に分業しながらつくっていくのが岩槻人形の特徴です。

「自分の手元に来るまでに、何人も職人さんの手を経ているので、私も負けないくらい心を込めてつくっています」と語るのは、(株)東玉の木目込工房で働く齋藤由香利さん。子どものころから大好きだった人形の世界に入ってから1年半。小道具づくりの職人さんに会って、材料選びに大変なこだわりをもっていることを学びました。

このまちでは、材料調達や販売などで多くの人が人形にかかわっています。(有)鈴木人形の鈴木隆社長は、今後のまちづくりについて、「昔のように職人が軒を連ねるエリアをつくって、人形づくりをもっと見てもらいたい。訪れる人にとっても魅力的なまちでありたいですね」と語っています。

城下町らしい歴史や文化を有するまち・岩槻。この貴重な財産を市民と協働でま



「木目込み人形というのは、胴体に筋目を彫り、布地をその筋に“いせこんで”着せていく人形のことです。毎日が発見の連続で楽しいです」と語る(株)東玉の人形職人・齋藤由香利さん。



(有)鈴木人形では、髪付けやお顔の眉描き、口紅をひく作業風景を9時から17時まで自由に見学できる。少人数なら予約なしで立ち寄ってもOK。



古くなった人形を供養し、別れを告げる「人形供養祭」。毎年11月3日、岩槻城址公園内の人形塚で行われる。また、毎年4月29日には同公園内の菖蒲池で、子どもの健やかな成長を願う「流しびな」の行事が行われる。



岩槻には人形をモチーフにしたものがまちのいたる所にある。特に、岩槻駅前のからくり時計は必見! 平日は10時、12時、15時、18時、20時の5回。週末は10時から15時までが1時間おきに増え8回(雨天中止)。